

## 小学校音楽科の授業に関する課題や悩み

### 1 授業に関する課題や悩みについて

平成21～22年度に実施した音楽科の研修講座及び出前講座受講者の提出資料や事後アンケートを基に、現場の教師が授業についてどのような課題や悩みを持っているかを整理した。(アンケート数 86)

その結果、以下のような課題を抱えていることがわかった。

#### (1) 表現領域

①歌唱分野	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のヤマの作り方</li> <li>・ 児童の集中力の維持のさせ方</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽記号や歌詞を重視した表現の工夫</li> <li>・ 学び合いを活用した音楽表現の指導法</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音程が取れない児童の指導、効果的な音取りの方法</li> <li>・ 読譜や階名唱の指導</li> <li>・ 発声(変声期を含む)指導</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 客観的な評価方法</li> </ul>

②器楽分野	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のヤマの作り方</li> <li>・ 楽器の選び方や担当楽器の決定方法</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽記号を重視した表現の工夫</li> <li>・ 学び合いを活用した音楽表現の指導法</li> <li>・ 良好なアンサンブルの作り方</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タンギングや運指の指導</li> <li>・ 読譜指導</li> <li>・ ハーモニー指導</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の演奏スキルについて</li> </ul>

③創作分野	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材選択の方法</li> <li>・ 児童の集中力の維持のさせ方</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽記号や歌詞を用いた音楽づくりの指導法</li> <li>・ 学び合いを活用した音楽づくり(ふしづくり)</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 即興的な音楽づくりの指導法</li> <li>・ 記譜や記録の方法</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の指導スキルについて</li> </ul>

## (2) 鑑賞領域

	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業のヤマの作り方</li><li>・ 児童の集中力の維持のさせ方</li><li>・ 教材分析の方法</li></ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 表現領域との関わりを持たせた指導法</li><li>・ 学び合いを活用した鑑賞指導の在り方</li></ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 聴き取る力と感じ取る力の区別と指導（知覚と感受）</li><li>・ 表情や身体表現の指導法</li><li>・ 文章表現の指導法</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 客観的な評価方法</li><li>・ ワークシートの効果的な活用の仕方</li><li>・ 感受の評価方法</li><li>・ 効果的な授業展開方法</li></ul>

※（１）表現領域及び（２）鑑賞領域の課題のほとんどは「言語活動」の充実を図ることによって解決できると考える。

## 2 音楽科における言語活動の重要性と留意点

### (1) 重要性

音楽科における言語活動とは、表現及び鑑賞の活動において、楽曲から感じ取ったこと（感想・雰囲気）について、言葉に表すことで、そう感じ取った理由を見いだす活動である。様々な音楽体験を通して理解してきた基礎的・基本的な知識・技能を、具体的な言葉で考えたり他人に伝えたりすることで、感じ取ったこと（知覚や感受）を表現したり、共感したりすることに繋げること（音楽科の中心的な活動）ができるのである。

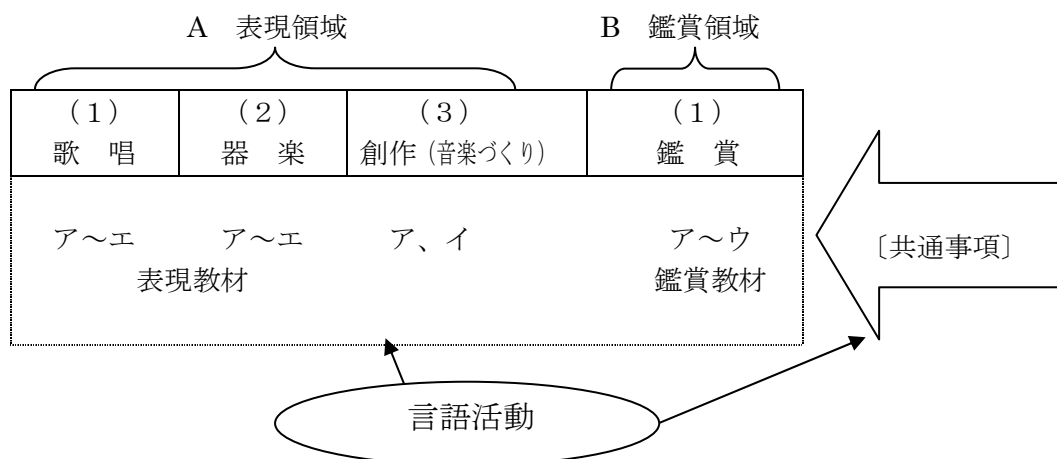
この活動を質的に高めるためには、コミュニケーションに視点をおいて、自分や集団の考えを発展させ、より豊かな表現の工夫ができるように、すべての音楽活動において、[共通事項]と「言語活動」を関連させ、知識や技能の活用を目指して指導することが大切である。

### (2) 留意点

音楽科においては、音楽のよさや美しさを味わうことが大切であって、音楽用語を「語彙」として活用できるようにすることや「言語活動」そのものが目的ではないことは常に留意しなければならない。

## 3 今後の調査研究に向けて

授業における「言語活動」の充実を図るに当たり、表現領域と鑑賞領域の指導に大きな差はないと考える。音楽のよさや美しさを味わうための一つのアプローチの手段として「言語活動」を用いるからである。

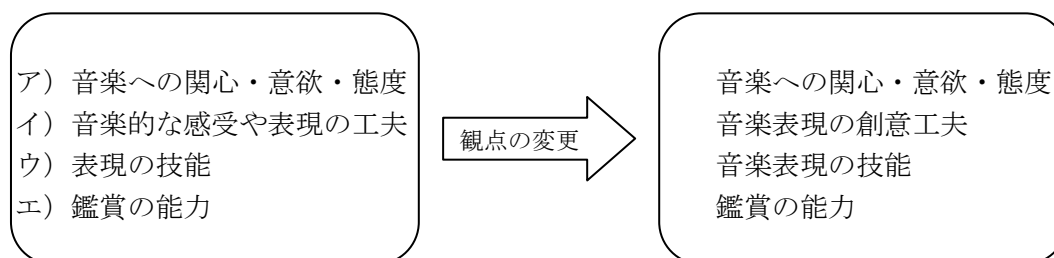


[共通事項] は活動同士をリンクさせ、児童の思いと豊かな音楽を結びつける。

- [共通事項] に示される「音楽を形づくっている要素」を変化させることが表現の工夫に繋がる。← 言語活動（用語を使っての発表や協議）
- 曲想に関すること以外（発声法、運指法 他）でも言語活動によって、効果的な指導ができる。
- なぜその表現・表情記号なのか理由を考える力＝自分の思いを曲想に反映できる能力を育てることができる。

評価規準として四つの観点が挙げられる。

<新学習指導要領>



単元及び教材のねらいが達成されたかどうかを四つの観点を基に、多方面（筆記、実技、態度、討論、意見発表等）から判断し評価する。

ウ) は、実技試験等で評価の項目を定め、過程と結果を十分に考慮すれば比較的客観的な評価ができる。しかし、他の観点は、ややもすれば曖昧な評価になりやすい。

そこで、「言語活動」を生かした効果的で客観的な評価方法を考える必要がある。

#### 4 今後の調査研究について

平成23年度は、近隣小学校の数校にお願いし、表現分野（歌唱）については、「言語活動」を用いた [共通事項] の指導や評価の仕方、鑑賞領域については、具体的な「知覚」と「感受」を「言語活動」を用い、より鑑賞能力を高める指導法と評価方法について調査を実施したいと考えている。